



松籟も洗得とまやわやうも
 旭杓
 顔の並りや此を種引のあり
 而后
 その名前の伝へて乳はく秋草と
 沙鴉
 大いものよそほのまももこれ
 芝石
 夏ふらふやまもむらむら
 夕ふさらを
 不語ふりともも来らるゝあはあ
 といへ漁人の
 家とゆつたの宿屋
 といふあつたの
 といふ

川村しむらゝもや柿の皮
 梅裡

晴く舟おとさす丁の後ろ
 といふ

便船やあきく
 旭杓

神作しとまらもの
 といふ
 小きく布帳状風
 といふ
 舟の
 といふ
 きれつと
 といふ
 かの
 といふ

竹生嶋奉納

云々世の家よりあつたる冬ぬきりる末の句々十二因縁
外よりや流砂の力知をさるるこけぬる方々一六乃
おつたるハ種多敷き種々あつたるを知らしめしめさるる
かきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき

ちるあつたる冬ぬきりる末の句々十二因縁 沙路

出るあつたる冬ぬきりる末の句々十二因縁 北松

出るあつたる冬ぬきりる末の句々十二因縁 北松

出るあつたる冬ぬきりる末の句々十二因縁 北松

田

出るあつたる冬ぬきりる末の句々十二因縁 北松
おつたるハ種多敷き種々あつたるを知らしめしめさるる
かきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき
かきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき

五人一とつたる冬ぬきりる末の句々十二因縁 沙路

水際ハ丁殺生禁断とつたる冬ぬきりる末の句々十二因縁

出るあつたる冬ぬきりる末の句々十二因縁 沙路

出るあつたる冬ぬきりる末の句々十二因縁 沙路

出るあつたる冬ぬきりる末の句々十二因縁 沙路

昭れは約束の舟来しく、毎舟と云ふこといふも、
船のいひけるわりの知りけし、山道くわらうこれ
西のりときわやをわりのむらう、
わびうらむし、風、
——と東くうらなれ、
け——
ち——
ち——

あやのりらほと、
ゆ——
山、
風、
山、

秋、
山、
山、
山、

日暮しけしき方らぬや尾野紙 芝石

浮世書

いよの銀紙すくも

辰崎

松尾の舟すくも 河路

月より舟すくも 舟

いよの舟すくも 舟

いよの舟すくも 舟

粟津

祖翁墓前

庵まよ向の向と見事か

念のいし掃除のうし 沙路

新しや其木もよ末のし 岡島

新し丘

みよの法所の住持舎の麓の地をけりし

うたわや若き者し 芝石

司任養應記

ほのめをいふも形くまをそよのふらふとてふもふれはる
名この地をれくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
男ゆいふあやうとてふもあひく最ふら先記
中の傍地をくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

黒津ノ里

勢多川ノ西大目ノ渡リノ上ノ山ナリ

けいじ

黒津ノ西南根村ノ上ノ山ナリ

比古之上田上六師ふくも

あはく峰

セシズカ峯ト云リ

サボト高

サボト高ナリ

あはく峰

石山

あはく峰のくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく 旭松

ついであはく峰のくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく 石

あはく峰のくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく 川

川を流すのくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく 砂

うたあたるはなみけしきうらわりの

多岐のゆきとくぬや山はつじ

梅裡

かくく東海をうらうらと神路へくまを
るくみらぬまをわゆるの殺し川の巻巻も餅作
の巻物をうらうらとくまをくまをくまを
まゆるはくま

ふれくまをうらうらとくまをくまを

河路

柿平ら雲くまをうらうらとくまを

栞裡

きの小土山をうらうらとくまをくまを

ちりくまをうらうらとくまをくまを

柳裡

乙未後の七月廿日

Faint, illegible text on the left page, possibly bleed-through from the reverse side.



Blank page with a red seal and some faint markings.

中村俊定文庫 (Nakamura Tadamasa Bunko)

